

今治城 御金櫓 館蔵品展

会期：2025 年 11 月 7 日 ～ 2026 年 3 月 8 日

よつ だ かんすい じゅんぞう

「四田観水・淳三 父子展」作品目録

○初展示

作者	題名	形状	素材・技法
○四田観水	牧童	掛軸	紙・彩色
○四田観水	ねずみ	掛軸	紙・彩色
○四田観水	鯉	掛軸	紙・彩色
○四田観水	高砂	掛軸	絹・彩色
○四田観水	鐘の音	掛軸	紙・彩色
○四田観水	水郷	掛軸	絹・彩色
○四田観水	華巖	掛軸	絹・彩色
○四田観水	炭焼	掛軸	絹・彩色
○四田観水	山路	掛軸	絹・彩色
四田観水	漁村	額装	紙・彩色
四田観水	濠端	額装	紙・彩色 1979 年作

作者	題名	形状	素材・技法
○四田淳三	朝陽	色紙	紙・彩色
○四田淳三	無題(海と島の風景)1	色紙	紙・彩色
○四田淳三	無題(海と島の風景)2	色紙	紙・彩色
○四田淳三	干支の動物など(10 枚)	年賀状	紙・彩色
			1973～1992 年作
四田淳三	島の漁村	額装	紙・彩色
			1972 年作

作者紹介

よつ だ かんすい

四田 観水（1892～1983 年）

大正～昭和期の日本画家。

1892(明治 25)年に、現在の愛媛県今治市大浜^{おおはま}で生まれる。同郷今治地域の画家である大智勝観^{おお ち しょうかん}を頼って上京し、師事。1921(大正 10)年の第8回院展に「高原の夕」が初入選。以後、院展に入選を重ねる。

戦後に一時、今治市新谷^{に や}に住み、後に東京都杉並区にアトリエを構え、創作活動を続けた。1963(昭和 38)年に日本美術院特待。

素朴な画風で、自然や身近なもの、そして郷土の風景を数多く描いた。

※院展：日本を代表する日本画の美術団体である日本美術院の公募展

よつ だ じゅんぞう

四田 淳三（1928～2010 年）

昭和・平成期の日本画家。

1928(昭和 3)年に愛媛県今治市出身の日本画家、四田観水の子息として東京都で生まれる。東京美術学校(現在の東京芸術大学)日本画科卒。日本画家の奥村土牛^{おくむら と ぎゅう}に師事。

1982(昭和 57)年に日本美術院特待。

父四田観水と同様に素朴な画風を持つ一方で、厳冬の中での入念な写生をもとにした荘厳で静謐な雪塔風景などを描き、院展を中心に制作発表した。